

## 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

地域の文化や風習の体験、獣害対策、農作業、冊子作りを通じて地域の方々と触れ合い、地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える



### 【地域の基礎データ】

人口：14,904人（令和2年1月1日現在）

高齢化率：41.7%（平成31年1月1日現在）

産業：林業、水産業、観光業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：4名（1回生：1名、2回生：3名）

活動期間：平成28年6月～

担当教員：八島雄士、岸上光克（食農総合研究所）

### 1. 活動実施の経緯

地域住民との交流や伝統行事、イベントなどへの参加を中心とした活動を行っています。なお、燦々会、宮祭り、現地報告会を、原則として全員参加とし、それ以外は個々に千葉さんと連絡して取り組む形で実施しています。

### 2. 活動の内容

- ①燦々会（7月15日）：住民コミュニティで地元の家庭料理を出し合い、みんなで食べながら語り合う伝承の場です。調理方法を学ぶほか、住民との会食で親睦が深まります。
- ②宮祭り（10月1日）：梶吉神社で行われる伝統行事。今年は、準備作業に参加しました。神社の清掃活動は住民の協働により行われており、神社の存在価値の高さを感じました。
- ③現地報告会（12月15日）：報告会を、学生が主体となって運営を行い、各自の振り返りや今後の活動に向けた方針を住民とディスカッションしました。
- ④個別の実施：(1)棚田での作業、(2)妙法展示会の見学、(3)地域行事への参加など

### 3. 活動を通じて

色川地区は移住者が多い地域であると知られていることに加え、棚田や狩猟などその地域の特性を活用したイベントが年間を通して開催されており、様々な学びの機会が提供されています。しかし、現地を訪れるための交通費が高価となる関係で、複数回現地を訪れることは難しいことが課題です。来年度は例年通り現地での活動を軸としてLIPの活動が地域の方の一助になるように取組みつつも、大学内での勉強会などの活動を増やし、学生の学びを更に深めることのできる環境を現地の方の協力の下で作っていくことで、活動をより活発化させていきたいと考えています。（2019年度リーダー：2回生・藤本 多敬）

4. 成果物など

# 那智勝浦LIP



2019メンバー  
2回生 3人  
1回生 1人

## ▶▶色川地区と小阪区の概要◀◀

小阪区は人口約30人の小さな地域ですが、他の地域には見られない伝統行事が数多くあり、伝統を大切にする意識が強く、また小阪区を含めた色川地区は移住者を多く受け入れている地域でもあります。地域には美しい棚田や段々畑があり、そこで特産品の色川茶も育てられています。

私たちは地域の行事への参加や、一人一人が活動目標を定めてそれぞれの軸で活動しています。

### 小阪区の行事(一部)

- ◆ 4月 ◆ 花祭り
- ◆ 5月 ◆ 棚田田植え
- ◆ 6月
- ◆ 7月 ◆ 棚田草刈り  
◆ 燦々会(顔合わせ会)
- ◆ 8月 ◆ 道普請  
◆ 施餓鬼  
◆ 地藏盆
- ◆ 9月 ◆ 棚田稲刈り  
◆ 宮掃除
- ◆ 10月 ◆ 宮祭り  
◆ 亥の子祭り
- ◆ 11月 ◆ しめ縄作り  
◆ 妙法展示会
- ◆ 12月 ◆ 出役(草刈り)  
◆ LIP報告会
- ◆ 1月
- ◆ 2月 ◆ 大師講  
◆ 水大師
- ◆ 3月

### 燦々会



### 宮祭り



### 稲刈り



### 妙法展示会



## ▶▶今後に向けての課題と実行案◀◀

- ◆ 学生がより参加しやすい環境を作る
- ◆ 伝統料理のレシピの保存・活用
  - ▷ポポロハスマーケットや和大祭で伝統料理や特産品などの販売
  - ▷レシピのデジタルデータを地域住民との交流に活用